

14. 重症心身障害児(者)の気質および類縁概念に関する研究 －支援者の知覚内容からの検討－

- 中村 友亮（国立病院機構西新潟中央病院 療育指導室）
榎本 拓哉（国立病院機構西新潟中央病院 療育指導室）

【 研究目的 】

看護職および福祉職の支援者が業務で接する重症心身障害児（者）に対し知覚する気質および類縁概念を明らかにする。

【 研究の必要性 】

重症心身障害児（者）（以後「重症児（者）」と記す）支援において、看護や介護、福祉など直接的支援に携わる専門職には、身体状態などの定型的・客観的評価とともに、重症児（者）一人一人に対する柔軟な理解が求められる。

そのため、これらの支援者は、通常観察される身体的特徴、体温や心拍、行動、着衣、表情、嗜好などの広範な情報から、気質および類縁概念（その人らしさ、個性など）に関わる情報を選択的に知覚し業務を行っていると推察する。

このような重症児（者）を対象とする対人知覚は、職務の遂行や重症児（者）との豊かな関係形成に必要な視点を含んでおり、支援者の専門性や経験知を検討するうえで重要な知見と考える。

【 研究計画 】

1. 調査対象

- 1) A病院 重症心身障害病棟 看護職（看護師・准看護師）83名、介助職19名
- 2) 国立病院機構関東信越グループ15施設および国立精神・神経センター病院療育指導室 保育士（重症心身障害病棟担当）96名

2. 調査内容

- 1) 職種名
- 2) 重症心身障害病棟での勤務経験年数（累計）
- 3) 業務内で接する重症児（者）に感じる「その人らしさ」（自由記述）

3. 調査方法

郵送による自記式質問紙調査法を用いた。

4. 分析方法

1) 予備分析

看護職および介助職の回答を対象とした。自由記述の回答に、舟島（2007）を

参考に「内容分析 (B e r e l s o n, 1 9 5 2 / 1 9 5 7)」を実施し、研究担当者2名の合議により記述を分類しカテゴリーを形成した。分類の信頼性は、全回答の10%無作為抽出分について、看護師2名による分類との一致率をS c o t t ' s p iにて検討することとし、信頼性確保の基準を0.70以上とした。

2) 本分析

看護職および保育士の回答を対象とした。自由記述の回答に、テキストマイニングソフトウェア「KH C o d e r (v e r. 2. 0 0 e) (樋口, 2 0 0 4)」を用い「計量テキスト分析 (樋口, 2 0 0 4 ; 2 0 0 6)」を実施した。看護職および保育士それぞれの回答における語の出現パターンは、共起ネットワークを作成し把握した。また、予備分析結果を参考にコードを作成し、各コードと職種に関連性を5%有意水準にて χ^2 検定を用い検討した。

両職種における経験年数の同一性は、統計分析ソフトウェア「H A D (v e r. 1 5. 0 0) (清水, 2 0 1 6)」を用いB r u n n e r - M u n z e l検定にて検討した。

5. 倫理的配慮

本研究は、国立病院機構西新潟中央病院倫理審査委員会の承認を得て実施した(課題番号1435)。調査対象者には依頼書の書面上にて研究目的、意義、方法、倫理的配慮を説明し、返送をもって同意を得たこととした。

6. 研究期間

調査および予備分析は2015年4~9月、本分析および文献収集は2015年10月~2016年9月に実施した。

【 実施内容・結果 】

看護職59名(回答率71.1%)、介助職14名(回答率78.9%)、保育士56名(回答率58.3%)から回答を得た。

1. 予備分析

看護職59名(経験年数:中央値2.6,範囲0.2-24.3)、介助職14名(経験年数:中央値2.6,範囲0.3-3.1)の回答を対象とした。自由記述の回答は、537文脈単位、584記録単位に分割された。584記録単位のうち、記述内容が不明瞭もしくは抽象的と判断された29記録単位は分析から除外した。残り555記録単位を分析対象として意味内容に基づき分類した結果、8カテゴリー(C1~8)が形成された。表1に形成されたカテゴリー名、カテゴリー毎の記録単位数および総記録単位数に占める割合(%)を示す。看護師2名による分類との一致率(S c o t t ' s p i)は0.71, 0.78であり、8カテゴリーが信頼性を確保していることを示した。

表 1. 看護職および介助職が知覚する「その人らしさ」 8 カテゴリー

カテゴリー名	記録単位数 (%)
C 1 特定の物事に対する好き嫌いやこだわり、習慣的・反復的な発声や身振り等の行動	224 (40.4)
C 2 食事、排泄、体温調節、発作、嘔吐や分泌物、呼吸循環の様子や必要な健康管理	108 (19.5)
C 3 職員に対する態度の変化や発語、発話、身振り等の行動	91 (16.4)
C 4 快・不快などの感情表出の様子	72 (13.0)
C 5 家族に関連する行動の変化や面会家族の様子	25 (4.5)
C 6 身長・体重、筋緊張・変形・拘縮に関する身体的特徴	21 (3.8)
C 7 四つ這いや寝返り、車椅子の自操などの移動動作	10 (1.8)
C 8 着衣や手袋、普段所持している玩具、車椅子などの外見的特徴	4 (0.7)
総記録単位数	555

2. 本分析

看護職 59 名（経験年数：中央値 2.6，範囲 0.2 - 24.3），保育士 56 名（経験年数：中央値 4.3，範囲 0.3 - 39.2）の回答を対象とした。Brunner - Munzel 検定の結果，両職種の間には有意差が認められた ($t(111.21) = 2.35, p < 0.05$)。

自由記述の回答数は，看護職 431 件，保育士 398 件であった。分析の前処理として，KH Coder により「気管切開」や「療育」などの語について強制抽出の指定を行った結果，看護職は総抽出語数 4,890（異なり語数 983），保育士は総抽出語数 5,328（異なり語数 1,096）であった。

語の共起ネットワークを図 1，図 2 に示す。最小出現数 5，未知語を除く品詞を対象に描画数 40 の条件で出力した。出現パターンの近い語同士が線で結ばれており，ネットワーク全体の要である媒介中心性が高い語ほど濃い灰色で描画されている。語が付置されている場所，語同士の距離は意味をもたない。語同士を結ぶ線の太さは，Jaccard 係数の大小に関わりなく同一である。

看護職（図 1）は，語 54，密度 0.03，最小 Jaccard 係数 0.14，2～7 語からなる 18 のグループにより形成された。「名前」，「呼ぶ」，「こだわる」などの語が高い媒介中心性を示し，「職員」や「スタッフ」などの語とグループを形成した。また，「緊張」，「体温」など身体の状態を表す語が 3 グループにみられた。

保育士（図 2）は，語 60，密度 0.03，最小 Jaccard 係数 0.13 であり，2～18 語からなる 14 のグループにより形成された。「女性」，「機嫌」，「名前」，「本人」，「本」などの語が高い媒介中心性を示し，「髪の毛」，「いる」，「こだわり」，「話」などの語とグループを形成した。また，「怒る」「笑顔」などの感情語が 6 グループにみられた。

他，両職種とも，「スタッフ」などの職員を表す語，「テレビ」，「車椅子」，「ベッド」などの生活用品に関連する語がみられた。

【 考察と今後の課題 】

予備分析に要したコーディング作業量および文献検討の結果を踏まえ、本分析では計量テキスト分析に移行した。結果、看護職、保育士いずれの共起ネットワークにおいても、主に「テレビ」などの環境に関わる語、「名前」などの関係性に関わる語、「笑顔」などの感情を表す語がみられた。これらは、両職種とも重症児（者）を単にケアの対象としてではなく、一人の生活者として捉えていることを示したと考える。

また、コーディング結果のクロス集計において、「身体状況」、「感情」、「社会関係」にて有意差が認められた。看護職はより身体的な側面を、保育士はより社会的な側面を知覚することを示したと考える。これら職種における知覚特徴が、どのような職務経験により形成されるかについては、今後検討が必要である。

【 引用文献 】

- Berelson, B. (1957). 内容分析 (稲葉三千男・金圭煥譯, 訳). 東京: みすず書房. (Berelson, B. (1952). *Content analysis in Communication Research*. Glencoe, III)
- 舟島なをみ. (2007). *質的研究への挑戦 第2版*. 東京: 医学書院.
- 樋口耕一. (2004). テキスト型データの計量分析—2つのアプローチの峻別と統合—. *理論と方法*, **19**, 101–115.
- 樋口耕一. (2006). 内容分析から計量テキスト分析へ—継承と発展を目指して—. *大阪大学大学院人間科学研究科紀要*, **32**, 1–27.
- 清水裕士. (2016). フリーの統計分析ソフトHAD: 機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案. *メディア・情報・コミュニケーション研究*, **1**, 59–73.

【 謝辞 】

本研究にご協力を賜った皆様に厚く御礼申し上げます。

【 経費使途明細 】

	使途内容	金額
	PMLD／重症心身障害	66,155円
書籍取得費	コミュニティ心理	25,272円
	追加収集 (対人認知等)	49,063円
複写文献取得費		9,510円
	合計	150,000円
	大同生命厚生事業団助成金	150,000円